

特集

地球市民の育成へ



「ユニセフの開発のための教育」 地球市民を育てるための実践ガイドブック発刊

今年度の学校向け春季ユニセフ活動用資料はみなさまのお手元に届きましたでしょうか。今回はその資料の中に「ユニセフの開発のための教育」という冊子が入っています。実はこの冊子、ユニセフが目指す「地球の子どもたちみんなが地球市民として育つ」ためのガイドブックです。冊子には授業でも使えるさまざまな活動の手法が紹介されています。今回はこの冊子の特集します。

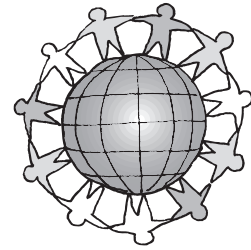
今、世界には環境破壊、貧困、紛争など多くの問題があります。そしてこの解決のためには、地球上の人びとみんなが同じ地球市民として互いに知恵を出し合い、協力することが何よりも大切です。未来を担う子どもたちにもこれらの問題の解決が託されています。

ユニセフの「開発のための教育」は、子どもたちが地球市民としての考え方や態度を体験的に身につけることを目指しています。そして地球市民となるために学ぶべきものを以下の5つのグローバルコンセプトに体系づけています。



.....相互依存.....

人間も地域も国もさまざまな関係の中に生きていることを理解している。
ひとつの出来事や問題にも時間的なつながりがあることを知っている。例えば、熱帯林を切れば、将来はどのようなになるのか想像できる。
不均衡な相互依存の状態が存在することも理解している。



.....変革と未来.....

行動を起こすときにどのようにはじめ、すすめばよいかを知っている
よりよい変革を起こすためにどのような力が必要か知っている。
未来に希望を持ち、自分たち自身がよりよい未来をつくる原動力だということを理解している。
実際に行動を起こす力をもっている。

地球市民になる 世界の子どもたちは...

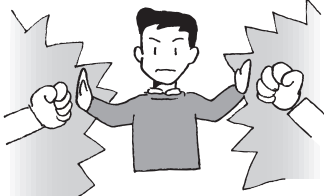


.....イメージと認識.....

どのような固定観念や偏見が生まれやすいのかを知っている。
固定観念や偏見がどのように生まれるのかを知っている。
固定観念や偏見がどのようなことを導くのかを知っている。
自分や人に影響を与える情報を客観的に分析できる。

.....対立とその解決.....

対立が起きたときにどのような解決方法があるかを考えることができる。
暴力を用いない解決方法を考えることができ、また実行できる。
対立する両者が納得する解決方法を考えることができる。



.....社会正義.....

人権や正義について広く普及している考え方をもっている。
正義ということについて客観的に考えられる。
世界で普遍的な正義の価値観となっているもの（世界人権宣言、子どもの権利条約など）によく親しみ、理解している。

こんなアクティビティ
やってみませんか？

「開発のための教育」では5つのコンセプトに基づいて対象年齢別のアクティビティを紹介しています。グループワークやロールプレイング、シミュレーションなど、それぞれの状況に合ったアクティビティを実践してはいかがでしょうか。

例えば...

「高層アパート建設計画」

(相互依存・中学生から高校生以上)

ねこ国またたび町では高層アパートの建設計画が持ち上がっています。またたび町のさまざまな住人になって話し合い、この建設計画をすすめるべきかやめるべきか決めましょう。

地域社会においてさまざまな人びとがさまざまな関係でつながっていることを学ぶためのアクティビティです。



「写真合わせ」

(イメージと認識・小学校低学年から)

2片に分かれた一枚の写真。写真の1片を見て、もう1片の部分を想像します。そして、その1片を持っている人をグループの中からさがしてみましょう。自分の想像した絵を持っている人はいるでしょうか。

写真合わせを通じて、自分の持っている先入観などに気づき、また、ものごとの一部を見て判断をくだすことの危険性を学ぶためのアクティビティです。

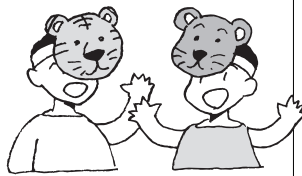


「公平ってどんなこと」

(社会正義・小学校低学年から)

「ヨシコは学芸会の劇で主役をやりたいと思っていますが、アツシの方がずっとじょうずにできるので主役はアツシだと思っていました。けれど主役に選ばれたのはヨシコでした。アツシは男の子なのでこの役をやるのはまずいのだと先生は言います。」

これって公平でしょうか、不公平でしょうか。いくつもの事例について話し合いながら、公平ってどんなことか考えてみましょう。



「対立を解決するための6段階」

(対立とその解決・小学校中学年から)

わたしたちのまわりで起こるさまざまな対立。その解決に向けて6段階に分けて話し合いをしてみましょう。

- 1) 対立を引き起こしているものを考える。
- 2) どうなったら双方が満足するのか目標をつくる。
- 3) その目標に向けてたくさんの方法を考える。
- 4) それらの方法がよいのかチェックする。
- 5) 一番よい方法を決める。
- 6) 実際にその方法で対立が解決したか、やってみよう。



「変化についてのインタビュー」

(変革と未来・小学生低学年から)

「車いすの通りやすい歩道ができた」
「川に魚がもどってきた」
最近、地域でよい方向に変革されたことはありませんか。どのようにしてこれらの変革は起きたのでしょうか。変革に関わった人びとに実際にインタビューに行ってみましょう。ものごとをよい方向に変革していくための手がかりや自分たちができることのヒントを見つけることができるでしょう。



学習のプロセス

「開発のための教育」は「探求する」「対応する」「行動する」という3つのプロセスが螺旋状に発展していきます。

知識を得るだけでなく、それらについて自分の立場や対応を考え、そして行動を起こす...これらがバランスよくできることが大切なのです。このガイドブックにおさめられているアクティビティをそのまま行うだけでなく、アクティビティの手法を授業や行事の中で用いていただければ、さらに効果的に学習を深めることができるでしょう。

ぜひこの冊子をご活用いただき、ユニセフ支援活動と合わせて、子どもたちの地球市民としての考え方や態度を養う一助にいただければと願っています。

